

2023年のグローバル市場見通し

シニア・ストラテジスト 石黒英之



ポイント① 22年の市場は波乱の展開に

22年のグローバル市場は、世界的なインフレ加速と、各中央銀行の大幅利上げを背景に波乱の展開となりました。株式やリートなどのリスク資産が売られたほか、各中央銀行の積極的な利上げを嫌気し、債券も売られるなど、幅広い資産が値下がりしました。一方、FRB（米連邦準備制度理事会）が世界主要先進国の中で、大幅な利上げを行なったこともあり、米ドルの上昇が目立ちました（右上図）。

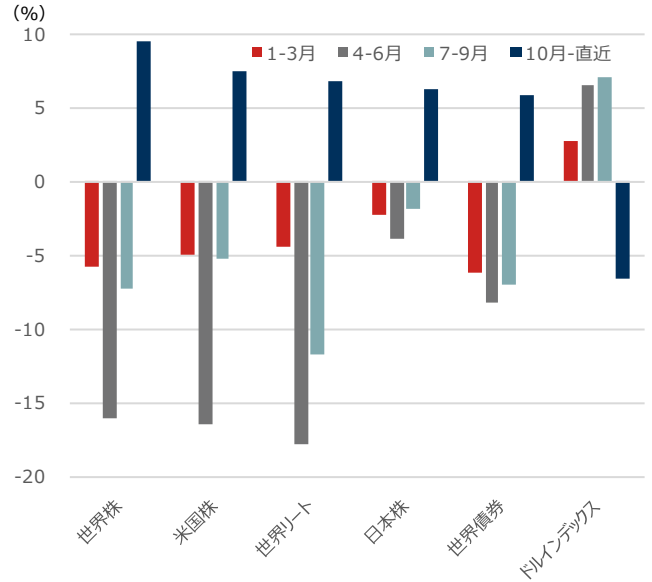
ただ、足元では潮目の変化もみられます。各国・地域でばらつきはありますが、市場の混乱の起点となったインフレに鈍化の兆しがみられ始めており、「株式・リート・債券売り、米ドル買い」という、いわゆるインフレトレードの巻き戻しが起きています（同図）。

ポイント② 景気の先行きが一段と重要に

23年の市場の注目は、「インフレ」から「景気の先行き」に一段とシフトするとみられます。各中央銀行の積極的な利上げは23年に一巡するとみられますが、G7（先進7カ国）の政策金利合計値は高い水準にまで引き上げられるとみられ、時間差を伴って大幅利上げの累積効果が様々な分野で顕在化すると想定されます。

大幅利上げの後には、金融市場にストレスがかかり、世界景気が大きく悪化する傾向があります（右下図）。こうした前提に立てば、23年は景気の先行き不安から、安全資産である「債券」への見直しが進む可能性があります。一方、「株式」や「リート」などのリスク資産は世界景気の悪化度合いによるところが大きいといえます。その意味では、市場が期待しているように、FRBが23年後半に利下げに転じ、金融相場の色彩が強まるのが焦点となりそうです。

2022年の世界主要指数の四半期騰落率

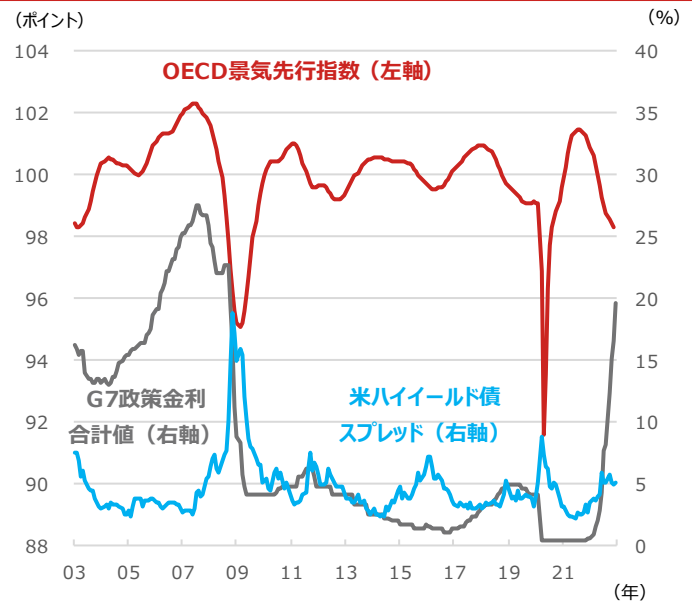


期間：2022年1-3月～2022年10月-直近、四半期

・直近は12月16日

・世界株はMSCI All Country World Index（米ドルベース）、米国株はS&P500種株価指数、世界リートはS&P Global REIT Index（米ドルベース）、日本株はTOPIX（東証株価指数）、世界債券はBloomberg Global Aggregate Index（米ドルベース）
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

OECD景気先行指数・G7政策金利合計値・米ハイールド債スプレッド



期間：（OECD景気先行指数）2003年1月～2022年11月、月次
（その他）2003年1月末～2022年12月16日、月次

・米ハイールド債スプレッドはCSI BARC Indexを用いた
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。